

農業委員会だより

No.181

〒970-8026
いわき市平字堂根町4-8
TEL.0246(22)7534
FAX.0246(22)7538

編集・発行 いわき市農業委員会

桜の便りが届くころ
春の農作業がはじまる
新しい時代への昂揚を感じながら

春の訪れを告げる田人町の石割桜

主な記事のご紹介

2ページ

- いわき市農林業賞
- 指針を策定
農地の有効利用のために

3ページ

- 今号の表紙から
- がんばる農業者
あの人この人
鈴木 一成さん(平中神谷)

4ページ

- 先進地視察研修

5ページ

- 農地流動化情報
- 農作業労働賃金標準額

6ページ

- 地区だより
- トピックス



↑花崗岩を割って成長している様子

平成30年度いわき市農林業賞受賞者決定

去る2月1日(金)に、いわき市の農林業の発展等に顕著な実績をあげられた農林業者等を表彰する「いわき市農林業賞」の平成30年度表彰式がクレールコート(内郷綴町)で開催されました。

受賞理由

地域の森林整備の推進に努め、森林・林業の現場の第一線に40年以上携わっている。

平成30年6月に本市で開催された第47回全国林業後継者大会では福島県実行委員会会長を務め、また、福島県林研グループ連絡協議会や田人林業研究会の会長として、様々な体験教室や講習会を実施するなど、本市林業の振興に貢献している。



個人・団体の部(個人)

豊田 新一さん(60歳)

田人町旅人字前山

受賞理由

福島県のオリジナル品種「ふくはる香」の栽培促進、「いわきいちご」のブランド化に努め、収量増加や品質向上に取り組んでいる。

また、平成30年9月には、同部会の高設栽培研究会がふくしま県GAPの認証を受けた。

県や市と連携しながらPR活動も積極的に行うなど本市農業の振興に貢献している。



個人・団体の部(団体)

福島さくら農業協同組合
いわきいちご部会

(昭和44年3月設立) 平荒田目字中田

受賞理由

両親とともにいわき市で唯一葉ねぎの水耕栽培を行い、「いわき青ねぎ」として年間約50トンを周年出荷し、生産活動に積極的に取り組んでいる。

福島県農業協同組合青年連盟の委員長として食農教育に取り組むとともに、指導農業士として指導活動を行うなど本市農業の振興に貢献している。



青年の部

草野 城太郎さん(44歳)

小川町下小川字広畑

平成28年4月に施行された改正農業委員会法では、「農地等の利用の最適化の推進」が農業委員会の重要な必須業務として位置づけられました。

また、農業委員と農地利用最適化推進委員が連携し、地域における活動を通じて「農地等の利用の最適化」を進めるための、具体的な目標と推進方法を定めた「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を平成30年11月15日に策定いたしました。

詳しくは、農業委員会ホームページをご覧ください。

「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を策定しました

市HPキーワード検索

農地 指針 検索

今号の表紙から

いわき市内の山間部
田人町の山桜「石割桜」

石割桜の名の通り、花崗岩の隙間に発芽し石を割って成長し続けています。

満開になると同時に散り始めます。近くには馬頭観音の石碑も祀られており、地区名の「旅人(たびうと)」の通り、馬と旅をした人がこの山を越えたのでしよう。

樹齢約四〇〇年にもなる古木のヤマザクラは、幾重の時代をわたり馬頭様と一緒に街道の往來を見守り旅人地区の人々の心の拠り所となってきたのです。

今年も桜の季節がやってきます。

新元号のはじまり。

春作業のはじまり。

事故など無い様注意しましょう。

(撮影・執筆

蛭田 秀史 副編集委員長)

がんばる農業者
あの人この人



鈴木 一成 さん (51歳)
すずき かすなり
平中神谷

となる担い手としても期待されています。いわき市はいちごの産地となつていますが、生産者の高齢化や担い手不足等によりいちご産地の消滅の危機が懸念されており、

今回ご紹介するのは、平中神谷地区の鈴木一成さんです。

鈴木さんは、現在水稲15ヘクタール、施設野菜20アールを栽培するとともに、JA福島さくらいわき地区青年連盟委員長など若手のリーダーとして、また地域の担い手として活躍されています。

一方、平成29年より農事組合法人稲郷神谷(とうごうかべや)を構成員5名で設立し、その代表としてハウスいちご栽培にも取り組まれています。当地区では今後、ほ場整備事業が予定されており、その中心

(農)稲郷神谷と鈴木さんにかかる期待は大きいと感じました。

鈴木さんのハウスの設備については、様々な技術を導入し低コスト化が図られ、自動化することで省力化し、人手のかからないいちご栽培を目指して日々試行錯誤しているとのことでした。

また、視察研修や農業研修生の受け入れを通じて、新規就農者や若手農業者の育成支援にも尽力されています。今回の取材も、視察研修を受け入れているときにお邪魔して、筆者も一緒に研修を受けさせ

ていただきました。(農)稲郷神谷では、平成30年9月にF.G.A.Pの団体認証を取得しており、「安全・安心」の発信、六次産業化にも積極的に取り組んでおり、天のつぶを使つた日本酒「神谷」や、ふくはる香を使つた「苺酒」「いちごジャム」などの販売もしています。今回取材をさせていただき、「農業が趣味」とおっしゃる鈴木さんのお話を伺い、楽しんで農業をすることが地域農業の活性化にもつながっているのだと感じました。

鈴木さんが今後も地域の先導者としてますます活躍することを大いに期待したいと思います。



(撮影・執筆 箱崎 寿正 委員)

先進地視察研修に行ってきました

研修日時：平成31年1月21日(月)

出席者：草野 庄一会長、遠藤 重和委員、鈴木 義直委員、
草野久仁昭委員、箱崎 寿正委員、和田 正人委員

視察先：山形市農業委員会

全国コンクール特別賞受賞を皮切りに優秀賞、農林水産大臣賞を受賞するなど、編集技術が全国的に高く評価されている

視察目的：優れた広報誌を発行する農業委員会の広報編集活動を学ぶ

山形市からは、大築義雅編集委員長をはじめ編集委員5名、事務局3名の出席をいただき、農委広報やまがた「穂豊帆21(hohoho21)」の執筆・編集にあたり注意していることや心掛けていることを中心にお話を伺いました。

山形市では、編集委員就任当初に全国農業会議所新聞編集部との研修に参加してから本格的な活動に入るなど、新人教育が確立していました。

また、5W1Hの基本を踏まえつつニュース性、実用性、地域性、親近性を織り交ぜながら

	山形市	いわき市
農家人口	8,234人	14,953人
農地面積	137,580ha	532,338ha
編集委員数 (女性委員数)	7名(2名)	7名(0名)
年間発行回数	4回	4回
発行部数	8,300部	10,500部

農委広報やまがた「穂豊帆21」の由来

- ・「穂」 茎の先端に花や実が群がること
- ・「豊」 十分で不足がないこと
- ・「帆」 マストに掲げて将来を示すもの
- ・「21」 21世紀に望むために

正確性を担保する努力がなされています。何より編集委員一人一人が自分自身の言葉で執筆されており、研究会や視察も「報告」だけに終わらずに、読者がまるで会に参加したかのようにイメージしやすい

い記事になるように心掛けていくことに感心させられました。

特に、女性編集委員2名が中心的役割を果たしており、女性ならではの繊細かつ緻密な視点と相まって、皆で読み合せ・校正を繰り返し、事務局と連携を高める努力をされていることに編集に対する熱意を感じました。編集委員の広報誌に対する思いが一つになることの大切さを実感した研修であり、編集委員一同この良い刺激を今後の編集活動に活かしていきたいと感じました。

16期農業委員初の研修で、貴重な情報を得ることができ、大変有意義な研修となりました。



↑研修に臨むいわき市委員(左)

(執筆 遠藤 重和 委員)

市農業委員会だより

第35回情報紙 コンクール優良賞 受賞

一般社団法人福島県農業会議が主催する農業委員会情報紙コンクールにおいて、いわき市農業委員会だより第178号(平成30年4月1日発行分)が優良賞を受賞しました。

審査の講評

表紙は季節感があり、「がんばる農業者あの人この人」は担い手の声として興味深く読める。農地の貸借や農作業受委託の参考となる情報も伝えられており、長年農家と農業委員会をつなぐ役割を果たしてきた功績は大きい。



農地流動化情報 Vol.40

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。

■売りたい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	渡辺町松小屋字中町田 (1筆)	田	31.09
2	渡辺町松小屋字六反田 (1筆)	田	6.80
3	渡辺町松小屋字和久 (1筆)	畑	12.94
4	平中山字諏訪下 (6筆)	畑	14.85

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
5	平中山字矢ノ倉 (2筆)	田	4.90
6	平泉崎字上河原 (1筆)	畑	5.04
7	平泉崎字岸前 (1筆)	畑	5.01
8	平泉崎字根城町 (2筆)	畑	7.91

ご覧になって、詳細を知りたいという方は農業委員会事務局までお問い合わせください。



お問い合わせ

農業委員会事務局 農地調査係

☎ 0246(22)7534

平成31年農作業労働賃金標準額が決定しました

この標準額表は、本市の農林業における一般的な作業について、その標準的な金額を定めたものです。受委託にあたり、当事者間で委託料を協議するための目安としてご利用ください。

【請負労働作業】					
作業名	標準額(円)	単位	摘要		
水田	育苗	670	1箱	個人育苗硬化まで	
	耕起	5,800	10a	ロータリー耕	
		7,000	10a	プラウ耕	
	畔ぬり	50	1m		
	ブロードキャストによる施肥	500	1肥料1回/10a		
	代かき	6,700	10a		
	田植	6,500	10a	側条施肥の場合、500円増し。薬剤等の場合、500円増し。	
	防除	900	10a	薬剤費別	
	あぜ草刈	3,000	1時間	自走式草刈機使用の場合	
	バインダー	7,500	10a	ひも込み	
作業	脱穀	7,500	10a	ハーベスター	
	コンバイン	28,000	10a	ワラ結束の場合2,000円増し	
	コンバインの内訳	刈り取り	17,000	10a	倒伏の場合は、話し合いによる
		乾燥	8,000	10a	
		運搬	3,000	10a	
	もみ摺	300	30kg	運搬を除く	
	同時	400	30kg	もみ摺・色彩選別機同時の場合	
	色彩選別機	300	30kg	専用持ち込みの場合	
	くず米	100	30kg	計量と持ち帰りが条件。放棄する場合は該当しない。	
	畑作業	耕起	5,600	10a	ロータリー耕
果樹園作業	薬剤散布	2,500	10a	スピードスプレーヤ薬剤費別	

【雇用労働作業】				
作業名	標準額(円)	単位	摘要	
水田作業	手作業	7,000	8時間(1人1日)	
	機械作業(機械持参)	10,000	8時間(1人1日)	草刈りなど
畑作業	6,500	8時間(1人1日)		
果樹園業	整枝剪定	10,000	8時間(1人1日)	
	果樹一般作業	7,000	8時間(1人1日)	
山作林業	手作業	9,000	8時間(1人1日)	下刈りなど
	機械作業(機械持参)	12,000	8時間(1人1日)	下刈りなど

【備考】

- 特に、次のような場合には、当事者間で十分協議のうえ調整してください。
 - (1) 労働能力(性別・年齢・経験など)、山間部と平坦部、乾田・湿田など農作業に地域差等がある場合
 - (2) 整理田を基準としていますので、未整理田、土壌条件、農道の状況などの差異がある場合
 - (3) この表に記載のない作業を受委託する場合
- 1時間あたりの福島県最低賃金(平成30年10月1日改定)は、772円です。
- 賄い費(食事代)は、含みません。

※ 課税売上高が1,000万円を超える場合には、請負額に別途消費税が加算されます。

ご注意ください

耕作証明書が変わりました

平成31年4月1日より、全国共通の農地台帳システムへの移行に伴い、耕作証明書が変更になります。詳しくは、農業委員会ホームページもしくは下記担当までお問い合わせください。

農政振興係 TEL.22-7534

トピックス



同じ作物を作り続けていると土のバランスを崩し、生育不良となる連作障害が出易くなります。一度発生すると直すのに苦労するものです。

水耕栽培となると諸費用が高く諦めてしまいがちですが、最近、比較的投資を抑えることのできる隔離栽培として袋培地栽培が少しずつ増えています。

袋培地栽培の特徴は培地が地床から隔離された栽培のため外からの汚染もなければ土壌病害虫による被害の心配もなく、自根栽培ができるうえ、万一病気が入っても袋を取り換える事で対応できます。肥料は毎日決められた量を液肥で施用でき、灌水は水分センサーで自動灌水することにより過剰な施肥と灌水を抑えることができます。普通栽培に比べて収量・品質の向上が期待できます。

また、袋が栽培容器も兼ねているためベットや架台等を必要とせず、設置経費が比較的安価で、整地後にシートを敷いて培地を並べる簡易作業で自己施工が可能なものとなっています。

水分センサーにより天候・生育に応じた適切な灌水ができ、排液量も減らせ、培地は長期(4~5年)使用できるほか、使用済み培地は有機物を多く含んだ土壌として耕地に還元でき、環境にもやさしい栽培とも言えます。

連作障害など土壌病害虫で困っている方、育苗ハウスを有効利用されたい方は、検討されてはいかがでしょうか。(撮影・執筆 遠藤 重和 委員)



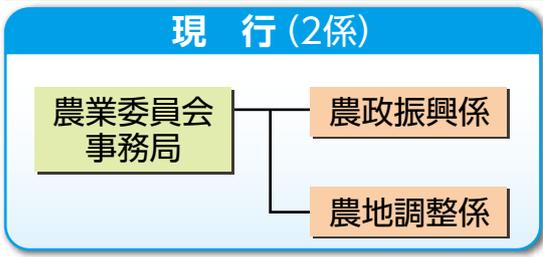
学習田での田植作業を通じて、米作りや田んぼの多面的な機能を学び、農業を知る機会になってもらいたいと思います。

市立平第四小学校学習田を紹介します。学習田は、小川江筋取水口(小川町)から約8km下流の平浄水場(平下平窪)の西隣りにあり、面積は5アールです。昨年5月16日に晴天の中、5年生76名が田んぼに足を踏み入れると次々と歓声が湧き上がり、泥まみれになりながら楽しく田植え作業をしていました。地元農家の協力のもと、普段経験出来ない苗の触り心地、田んぼの泥の感覚など貴重な体験をしていました。



(撮影・執筆 鈴木 義直 委員)

事務局の組織が変わりました《平成31年4月1日から》



※詳しくは、農業委員会ホームページをご覧ください。

（執筆 和田正人 委員）
う今日この頃
てほしいと思
持ち良く走っ
は好天の下気
にランナーに
の大会だけ
の大会だけ
サンシャイ
ならぬ。

編集委員
蛭田元 起 委員長・蛭田秀史 副委員長
遠藤 重和・鈴木 義直・草野久仁 昭
箱崎 寿正・和田 正人

編集後記
いわき市は福島県の中でも温暖な気候で台風の影響も少なく雪も減りに降らない。我々農業従事者にとっても仕事のしやすい土地であると感謝している。しかし、ひとたび雪が降ると東京並みのパニックに陥る。2月に予定されていたいわきサンシャインマラソンが雪の影響で中止になった。参加ラナーはもちろん、スタッフやボランティア、応援の人達も残念でならなかったと思う。もちろん安全面を考慮したら仕方ない決定だったと思う。ただ、10回目の記念大会だっただけに残念でならない。